



1/5 消防団出初式



1/13 市成人式



1/13 三道山町総会



1/15 寺井小学校福祉体験授業



1/27 山田しゅうじ・宮本しゅうじ国政報告会



2/3 市防災士連絡会研修



2/5 産学官意見交換交流会



2/7 福祉ボランティアチーム20新年会



2/9 いしかわ伝統工芸フェア



2/11 佐々木はじめ 新春国政報告会



2/13 会派大志 病院経営学習会



2/15 産業経済常任委員会 市内企業視察



2/16 美術作家協会総会



2/20 能美市体育協会表彰式



2/20 三道山町見守り会 防災講習



2/21 牛島町いきいきサロンボランティア



2/22 福祉ボランティアげんきかい新年会



2/23 県各種女性団体連絡会総会



2/23 日中友好協会総会



春まちほかほかプロジェクト  
3/1 聴覚障害理解講座



2/24 春まちほかほかプロジェクト防災講演会



3/1 寺井高校卒業式



3/3 寺井校下壮年団総会



3/9 寺井中学校卒業式



3/7 栗生校下町会長会



3/10 東日本大震災募金



3/16 DVフォーラム



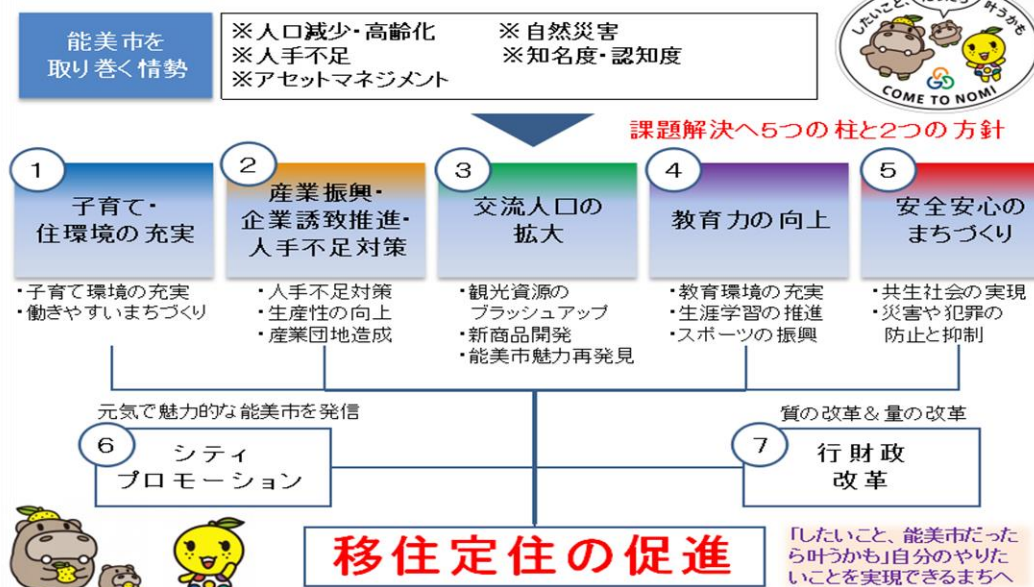
3/27 市男女共同参画推進委員会市長訪問

能美市議会議員  
たなか さくじろう  
田中 策次郎

絆 きずな ~能美市政報告~

3月議会 一般質問

- 外国人の市内就業者の想定を問う
- 国際交流協会発足についての思いを問う
- 新年度の男女共同参画推進施策を問う
- 防災センターでの新事業の展開を問う
- 発達障害の学習会の現況を問う
- 生涯寄り添う 障がい者支援について



平成31年度  
能美市当初予算を承認可決

一般会計 225億円  
特別会計 95億8190万円  
企業会計 87億7440万円  
総額 408億5590万円

恒例のボーリング大会が開催 85人が参加！（2019/3/24）

三道山町の壮年団・小学校PTA・女性部が幅広く声掛けし、毎年行っている世代間地域交流事業です☆



0歳から？歳までの方々が参加☆



交流会には佐々木代議士・宮本参議院議員・井出市長に ご臨席頂きました



●外国人の市内就業者の想定を問う

外国人労働者の受け入れを拡大する改正入国管理法が2018年12月成立し、新しい在留資格「特定技能」の対象となる「14業種」で受け入れが可能となり、2019年4月から施行され、介護、宿泊、外食の3業種で、外国人の労働が許可されることになりました。現在市内で就業されている外国の方は、技能実習生の資格で、最長5年、実習修了後には帰国しなければならない製造業、農業などの分野での技術習得者や、3年以内に国家資格に合格しなければ帰国するEPAでの特定活動資格の看護師や介護福祉士だと考えます。

●市内の外国人労働者の就業者の現況と、今後の職種や就業者数の想定は

答 朝本 仁志 産業建設部長

市内の外国人留学生や外国人居住者の雇用状況の資料がなく、ハローワーク小松管内の外国人労働者数は平成30年12月末で2,646人、平成29年12月末の2,227人と比較し大きく増加している。関係機関及び近隣の自治体と情報交換に努め、**市内で設置予定の人手対策プロジェクトチームにおいて情報の共有を図っていく。**



●国際交流協会発足についての思いを問う

平成30年6月議会で市内企業の人手不足対策の担い手となっている外国人労働者への支援に、外国人対応のワンストップの窓口を設置できないかと質問させて頂きました。また平成25年12月議会では、市内在住の外国人と市民の交流や文化の理解と外国人の生活の利便性向上のために国際交流室や国際交流協会を作れないかと一般質問をさせて頂きました。

出入国管理法が改正され、今後は多くの外国人労働者が市内にも働くことになると予想されます。外国人労働者を日本社会全体で受け入れていくためには「**語学力の向上」「文化理解の支援」「地域社会で孤立させない**」ことが重要と考えます。市国際交流協会には外国人の就労や市民の皆様との異文化交流など幅広い活動が期待されます。

●外国人労働者の就労を考えるセミナーの概要と

国際交流協会への思いと外国人との共生について問う

答 井出 敏朗 市長

外国人労働者と地域の関わり方、企業の疑問や不安に対応ができる企業の事例等を踏まえたセミナーを考えている。市国際交流協会は、市民と外国人が自然な形で交流し相互理解を深める事を目的とし、相談窓口の開設や国際交流サロンを開催し国際交流活動の推進を図る。

外国人との共生については、**新年度から外国人専用窓口を整備する。12言語に対応するテレビ電話通訳サービスも北陸3県の市町村で初めての導入**となる。外国人に対しての町会の困りごとの対応についても、今後の連合町会の中で相談し進めていきたい。



●新年度の男女共同参画推進施策を問う

能美市では平成22年3月に「能美市男女共同参画プラン」が策定され、男女共同参画社会の実現のための諸施策が講じられてきました。現在「第2次能美市男女共同参画プラン」の策定に向け準備が進められています。当初プランの計画期間もあと1年余りを残すところまででしたが、これまでの事業展開を振り返り、どのような成果があったのか。

また、能美市では企業誘致が順調な反面、人手不足が深刻な課題として浮上してきています。女性の社会進出が注目され、女性の就業が求められています。市においても女性の就業支援を講じる事が人手不足対策、地域の活性化となり、**加えて女性が輝いて生きるための施策が求められています。**

●これまでの男女共同参画推進の事業展開を振り返り、どのような成果があったのか  
新年度に打ち出している施策と今後の男女共同参画推進への思いを問う

答 井出 敏朗 市長

女性活躍の姿や場面は着実に増えていると思う。共助による地域づくりの取り組みでは「**能美市商工女性まちづくり研究会**」の方々が地域経済の活性化に寄与している評価を受け日本政策投資銀行賞を受賞されました。

また、能美市婦人団体協議会が指定管理者として運営する「ふるさと交流研修センターさらい」も積極的に展開をしている。広報のみにおいて「能美市で働く女性」特集を企画し、女性の活躍を紹介してきた。女性就業率県内第4位が示しているとおり、能美市の女性は、自分らしさを備え輝きを放ち活躍していると認識している。

新年度、女性の活躍と人手不足対策体制を強化するため4つの新事業に取り組む。

- 女性が就職する際の不安解消へのセミナー。
- 資格を取得し市内企業に就職した場合に軽費の一部助成。
- 身だしなみや心得についての講習会。
- 家庭内でのワークライフバランスの推進施策を行う。



2/26 能美市商工女性まちづくり研究会 活動報告

●防災センターでの新事業の展開を問う

防災センターは素晴らしい機能を持っているが、継続的に来館者を維持していくのは難しい面があることは承知をしています。運営に市民からのアドバイスや協力を求めることが必要と考えます。市の支援によって多くの防災士取得者がいます。防災士連絡会もあり、それらの団体や個人と連携しながら施設の活用を推進していくことが出来ると思います。新年度予算に年間を通して防災に関する学習イベントを行うとあるが、どのような概要であるのか。

●防災センターの利用者数の推移と 防災センターを市民に活用してもらえらる新たな事業展開の概要を問う。

答 吉光 年治 総務部長

来館者の推移は、防災フェスタを除くと平成28年度は6月からの10ヶ月で7,348人平成29年度は5,720人、今年度は2月末までで4,568人と年々減少傾向にある。来年度から、自助・共助の防災意識向上に**防災センターを防災学習拠点として活用する「我が事・丸ごと防災プロジェクト事業」を実施**する。**災害対策の専門家や気象予報士、被災体験された方を招いたセミナーや、企画展示、防災に関した工作実験などを行うワークショップを年間を通じて開催**する。防火水槽や消火栓、河川等の危険箇所のチェックポイントの写真を撮って回りグループで得点を競う防災ロゲイニングの開催や、高齢者や妊婦の疑似体験など体感できるコーナーを設置する。市だけではなく**防災士連絡協議会、市赤十字奉仕団**など様々な団体と連携し、**学びの機会を展開**する。



●発達障害の学習会の現況を問う

昨年7月より三道山町で障がいを持つの方の家族等を対象に、月に1度ボランティア有志で、こども食堂を行っています。夜に開催することから参加者は、ほとんどが親子で参加します。5時ごろから集まりだし、終了の8時まで皆さんゆっくりと過ごします。参加者は親子で毎回60名位です。自分もそこに顔を出し、色々なお話を聞かせて頂いております。子どもに対する障がいの悩みや地域での関わり方、就学時の悩みなどを話されます。その中で発達障害児の親として、節目の時の悩みがあります。見た目には分かりづらい事から、**能美こども食堂ネットワーク in 三道山** 幼児期に発達障害児としての認知について悩み、次にまわりや地域の方との接し方に悩むと言います。



能美こども食堂ネットワーク in 三道山

●親世代や広く市民に対しての発達障害への理解は大変重要と考える。  
市が取り組む学習会等の現況を問う

答 佐々木 ひふみ 健康福祉部長

平成25年に子ども発達支援センターを設置し、障がいの診断を受けた子供に限らず、子どもの発達に関する対応を行っている。子育てに関する講演会も毎年開催しており、さらに**学校では教職員全員が参加する校内研修会や若手教員を対象とした研修会を通じ発達障害の特性を理解し本人の持つ力を発揮できるように指導に努めている。**また、発達障害の子供を持つ親を対象に学習の場として**発達障害の子供を持つ親が経験や知識を生かし親の悩みを傾聴しアドバイスするペアレントメンターによるグループ相談会**を支援している。



●生涯寄り添う 障がい者支援について

発達障害の方には幼児期の出来るだけ早い段階から理解をし、幼児期から就学時には親と共に福祉や教育の分野での関わりが必要であり、社会に出てからも寄り添いながらの福祉支援が欠かせないと考える。**●発達障害の方には、生涯を通じて寄り添う支援が必要である。市の施策の現況と、今後の展開を問う**



能美こども食堂ネットワーク in 三道山

答 佐々木 ひふみ 健康福祉部長

発達障害の特徴には特定の分野に極端な苦手な側面があったり、相手の気持ちを察することや周りの状況に合わせて行動する事が苦手であるなどの傾向があります。この特徴に対して設備などの物的環境や人的環境を整えることで生活上のつまづきを減らしていくことは可能である。子ども発達支援センターによる支援に加え、**のみ子育てネットワークと連携し、交流の場「ゆるにこサロン」を実施している。新年度は新規事業として各機関の連携強化に情報共有システムを導入する。就労に結びつけるため商工会への理解啓発や企業見学など福祉と企業の交流会などを開催し、特性に合った就労ができるよう支援をしていく。**

ご意見・ご相談等がございましたら下記まで☆

連絡先記載の無いご意見は返信が出来ませんので、ご返答希望の方は連絡先をお忘れないように願います。

能美市議会議員 田中 策次郎

〒923-1124 石川県能美市三道山町 16-2  
TEL 0761-58-5037 FAX 0761-58-5209  
Mail kizuna@3926jp.net http://3926jp.net



日頃の活動もご覧ください

